

## トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、死亡個体の性別、特性

|          |                                                                                                                                                                                              |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 資料名      | トド資源調査                                                                                                                                                                                       |
| 調査主体     | 全国漁業協同組合連合会                                                                                                                                                                                  |
| 評価項目     | 1．特異な生態系の生産性が維持されていること<br>3．遺産登録時の生物多様性が維持されていること<br>4．遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること                                                                                     |
| 管理目標     | トドの漁業被害の軽減と個体群維持                                                                                                                                                                             |
| モニタリング項目 | トド個体群の動態把握                                                                                                                                                                                   |
| 評価指標     | 来遊頭数                                                                                                                                                                                         |
| 評価基準     | 最小資源豊度推定値<br>全道の来遊頭数等をモニタリングし、トド極東個体群の維持を妨げない、科学的ルールに基づく駆除を含めた個体数管理を実施（混獲と駆除の年間総数は、(独)水産総合研究センター北海道区水産研究所が開催するトドワーキンググループが算定、これに基づいて北海道連合海区漁業調整委員会が全道の駆除枠を決定。北海道が各海域の駆除枠を調整し、知床海域駆除枠もその中で決定） |

### <平成20年度までの具体的調査手法>

- ・航空機からのトド出現頭数調査
  - 実施時期：平成21年4月末から5月中旬
  - 実施場所：日本海北海道周辺
- ・上陸状況調査
  - 目視とカメラによる自動撮影
- ・生態調査
  - 標識及び発信機装着
- ・漁業被害実態調査
  - 北海道が集計する被害統計資料を解析
- ・被害軽減のための技術開発及び普及試験
  - イルカ混獲防止用ピンガーを用いてトドに有効か検証

### <平成20年度までの具体的調査データ>

- ・日本海における航空機からの目視調査では65群105頭を確認。
- ・上陸状況は、弁天島では12月上旬に最大83頭、雄冬岬では1月上旬に最大99頭、磯谷で1月下旬に最大72頭を観察した。
- ・標識個体は、20年度までに70頭を確認した。うち、10頭が複数年にわたって観察されている。
- ・回遊経路については、トド2頭に発信機を装着して調査を実施した。一頭は6月中旬のチュレニー島に移動、もう一頭は8月上旬まで宗谷海峡に留まった。
- ・ロシアにおける繁殖場でロシアとの共同調査を実施、標識及び衛星発信機を装着した。
- ・来遊個体の特性は地域により雌雄の割合が異なることが分かった。また、年齢構成についても地域

差がある。

- ・胃・腸内容物を分析した食性調査では、日出後に摂餌行動が活発になると考えられる。
- ・トドによる漁業被害額は 14 億円を超え、刺し網の被害が大きい。
- ・被害対策として、音による忌避高架の検証を行ったが、現在の仕様では音圧が小さく現在の仕様では忌避効果は認められなかった。

<コメント>

- ・得られた結果をもとに、来遊頭数推定を行う予定。

<評価>

- ・漁業法等による採捕制限のもとで、管理が行われている。